



東北みどり戦略だより

東北農政局 2024年第3号

東北管内における「みどりの食料システム戦略」の着実な進展に向け、関係の皆様タイムリーな情報をお知らせできるよう、「東北みどり戦略だより」を発行しています。

※「みどりの食料システム戦略」は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、農林水産省で策定したものです。

「みどり食料システム戦略」
の詳細はこちら→



<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/>

令和6年度東北地域オーガニックビレッジフォーラム開催

東北農政局では、令和6年8月6日に仙台合同庁舎で「令和6年度東北地域オーガニックビレッジフォーラム～有機農業の生産から消費まで一貫させた地域ぐるみの取組について考える～」を開催しました。

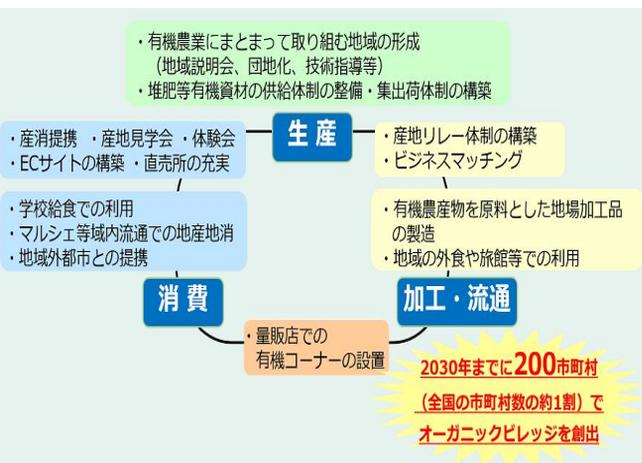
オーガニックビレッジとは？

有機農業の生産から消費まで一貫し、農業者のみならず事業者や地域内外の住民を巻き込んだ地域ぐるみの取組を進める市町村のことをいいます（東北では現在12市町村）。

詳しくは
こちら→



https://www.maff.go.jp/j/seisan/kankyo/youki/organic_village.html



本フォーラムには、生産者、流通事業者、消費者行政関係者、大学関係者等約260名が参加。

秋田県立大学の谷口名誉教授から、兵庫県豊岡市のコウノトリと人との共生、千葉県いすみ市の有機給食の事例等を、(有)大郷グリーンファーマーズの西塚代表から、資源循環型農業における生産現場の課題や今後の展望等について基調講演いただきました。

また、東北管内の事例紹介として、オーガニックビレッジ宣言自治体の山形県米沢市さんと福島県喜多方市さんから、具体的な取組事例を紹介いただきました。

パネルディスカッションでは、「産地から考える有機農業の可能性」をテーマに、4人の講演者をパネリストとして討論が行われ、会場の参加者から、食料自給率の向上、担い手の不足・確保に対する質問が出るなど積極的な討論が行われました。

「オーガニックビレッジ宣言」を行った東北の市町村



【参考:令和6年9月20日時点で、全国で計86市町村】
【 】内は、宣言済み市町村以外で、現在「有機農業産地づくり推進事業」に取り組まれている市町村。



フォーラムの
詳細は
こちら→



<https://www.maff.go.jp/tohoku/seisan/kanbou/240806.html>



消費者・子供向けのリーフレットを発行

東北農政局では、広く消費者や子どもたちの「食」や「環境」への理解と関心を広げるため、リーフレットを制作しました。

リーフレットは、消費者の皆さんに向けた「eaTOHOKU Action（イーとうほくアクション）」と保護者等が子供に読み聞かせに使用できる絵本風「ころころまるとさがすちきゅうにいいこと」の2種類あり、食や環境について分かりやすく説明しています。

今後イベントでの使用や、幼稚園、保育園、学校、図書館、消費者団体等様々な機関と連携して配布し、食や環境について知ってもらえるようご紹介していきます。 eaTOHOKU Actionは、下のQRコードからもダウンロードが可能ですので、是非ご活用ください。

eaTOHOKU Action
(イーとうほくアクション)

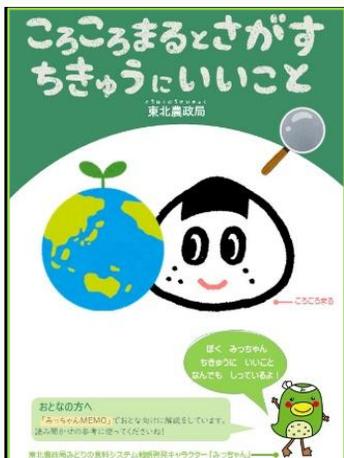
ころころまるとさがす
ちきゅうにいいこと



eaTOHOKU Action
の詳細はこちら→



<https://www.maff.go.jp/tohoku/syouan/soudan/midorino060927.html>



仙台市宮城野図書館で展示しました
(令和6年8月23日～10月10日)



東北農政局みどり戦略
啓発キャラクター
『みっちゃん』が4コマ
漫画になりました！

みっちゃんの
ミドミドミソンド♪
#1 よろしくね！



作・ゆみ☆マルキン

令和7年度農林水産予算概算要求の公表

令和6年8月30日に「令和7年度農林水産予算概算要求の概要」を公表しました。

みどりの食料システム戦略による環境負荷低減に向けた取組強化を図るため、以下の主な対策を始めとした予算を要求しています。

令和7年度農林
水産予算概算要
求の概要はこ
ちら→



<https://www.maff.go.jp/j/budget/r7yokyu.html>

() 内は令和6年度当初予算額

みどりの食料システム戦略推進総合対策 35億円（7億円）

○ グリーンな栽培体系への転換の加速化、有機農産物の生産・需要拡大、環境負荷低減の取組を支援する新制度構築に向けた調査、環境負荷低減の「見える化」やJ-クレジットを通じた関係者の行動変容、理解醸成 等

概要は
こちら



環境保全型農業直接支払交付金 31億円（26億円）

○ 農業生産に由来する環境負荷を低減する取組と合わせて行う地球温暖化防止や生物多様性等に効果の高い営農活動への支援（有機農業については単収が低く不安定な移行期を重点的に支援）

概要は
こちら



◆「東北みどり戦略だより」の問合せ先：
東北農政局企画調整室総括チーム
022-263-1111（内線4080、4405、4259）

